

## 2007年9月中間期連結決算内容

(2871)

**株式会社ニチレイ**

【お問合せ先】

広報IR部 山田達男

: 03-3248-2235

E-mail: [yamadat@nichirei.co.jp](mailto:yamadat@nichirei.co.jp)

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

# 加工食品の大幅減益を低温物流が海外の好調で下支え

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

## 2007年9月中間期の連結業績

単位:金額 = 億円(未満切捨て)	06/9	07/9(前回E)	07/9	07/9対06/9比較	
				増減額	増減率
売上高	2,301	2,336	2,310	8	0.4%
営業利益	83	83	79	-3	-4.0%
経常利益	80	79	77	-3	-4.1%
中間純利益	61	45	47	-13	-22.3%

### 1. 売上高

07/9(前回E)・・・2007年9月中間期見込・・・は7月30日に発表したもの

前年比横這い。加工食品が家庭用調理冷食やアセロラの不振で3%減収となるが、低温物流は海外が好調で3%の増収、取扱いの集中を進める水産も2%増収となり全体を牽引した

### 2. 営業利益

加工食品が家庭用の不振、原材料費の上昇や固定費の増加で06/9比16億円の減益  
 水産は、エビが市況軟化で採算が悪化し前年比微減益、営業利益の黒字化が達成できなかった  
 低温物流は海外の取扱い拡大で大幅増益に、地域保管も業界では貨物量が減少する中で集荷営業の強化により前年並みの在庫率を維持し、全体で9億円の増益  
 不動産は土地の分譲益などで4億円の増益

### 3. 経常利益

持分法投資損益は2社の適用除外などで06/9比4億円減、金融収支は06/9比1億円の改善

### 4. 中間純利益

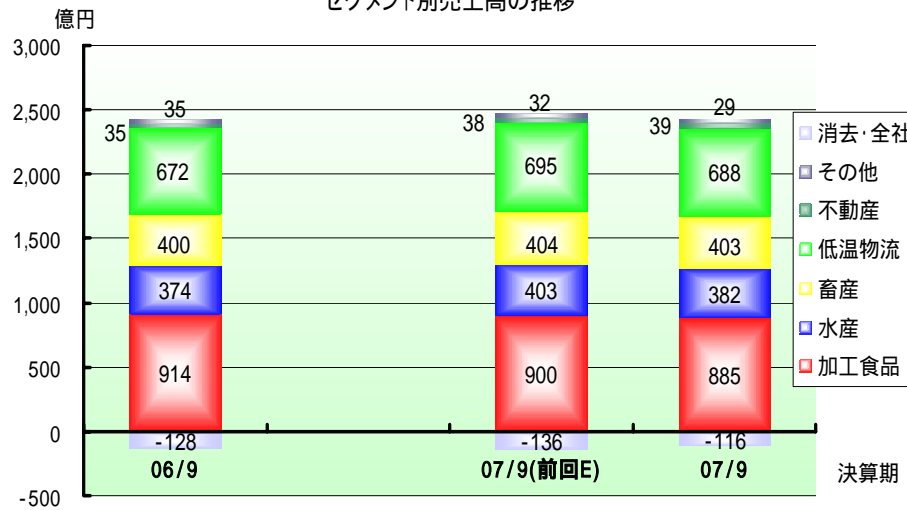
特別損益は06/9に発生した関連会社の株式売却益が無くなり27億円の損失増加

# 加工食品は原材料費上昇と家庭用の不振で減益に

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

## セグメント別売上高と営業利益(その1)

セグメント別売上高の推移



### 1.加工食品

Q:四半期のこと、1Qは第1四半期

全体では3%の減収、16億円の減益。業務用調理冷食は2Q以降の回復で前年並みを確保、家庭用調理冷食は販促費支出の見直しによる売上げ減少の影響が1Qまで出たのに加え、2Qは冷食消費の大幅な減少が響き06/9比6%の減収に、利益面では2Q以降畜産物を中心に原材料費が上昇したのに加え、広告費や年金費用など固定費も06/9比増加した。また新商品を投入したアセロラも売上拡大にはつながらず9%の減収。

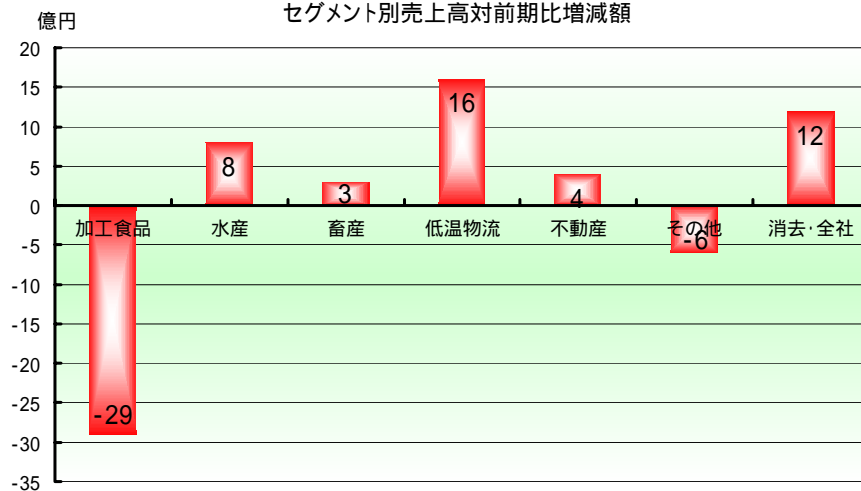
### 2.水産

06/9比2%、増収を図りながら非重点領域の圧縮を進める再生プランは計画どおり進捗しているものの、成長ドライブ領域に位置付けられるエビが、市況の軟調と加工品の競争力低下で売上げ・利益率ともに計画比大きく未達となり、全体では06/9比1億円の減益となる。

### 3.畜産

06/9比で1%増収、営業利益は前年を若干上回る。需給バランスが回復した鶏肉が順調に拡大したが、牛肉は解禁後の米国産の浸透や国産の拡大で豪州産の売上げに翳りが出はじめている。

セグメント別売上高対前期比増減額



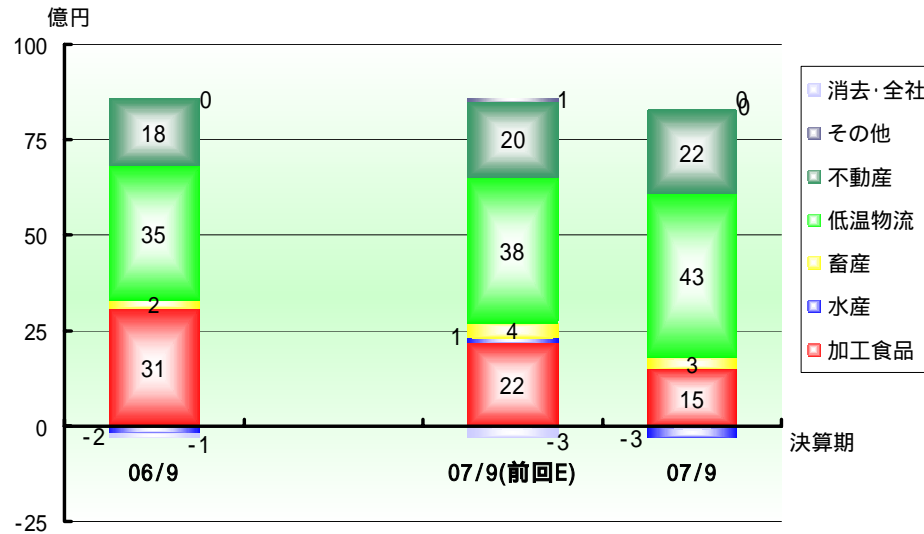
(以下、グラフの金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている)

# 低温物流は海外の好調で増収・増益に

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

## セグメント別売上高と営業利益(その2)

セグメント別営業利益の推移



### 4.低温物流

売上は地域保管が減収となったものの、欧州を中心に海外が06/9比28%の大幅増収になったのに加え、物流ネットワークも運送が伸び、全体では3%の増収に。採算面は海外が5億円の大幅増益になったのに加え物流ネットワークも不採算事業所の採算改善により3億円の増益、苦戦が予想された地域保管も当初見込みを上回り、全体では06/9比8億円の増益となった。

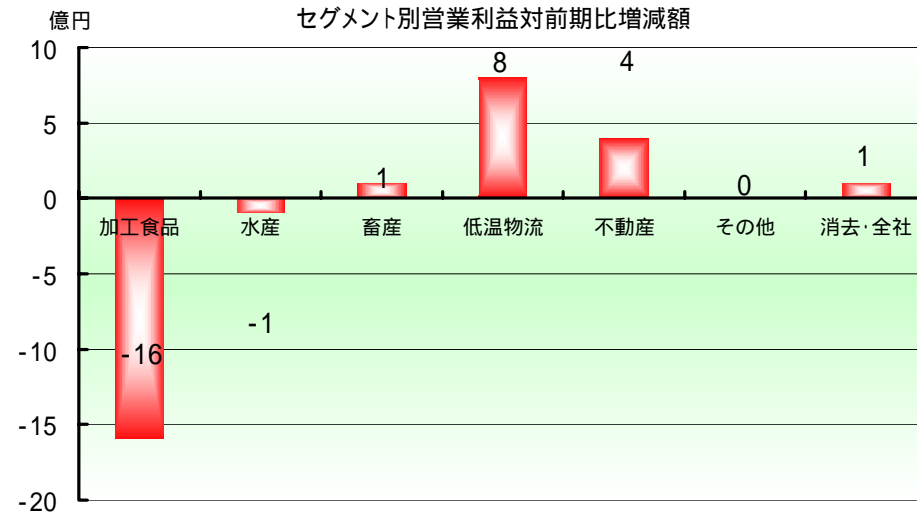
### 5.不動産

06/9比4億円の増益、土地や住宅の分譲売上により、当初見込みを上回った

### 6.その他

米国のてんぐは牛肉加工品の日本・韓国への輸出再開のめどが立たず、資産を売却し会社解散を決定した。

セグメント別営業利益対前期比増減額



# 業務用は2Qから前年を上回り回復が顕著に

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

## 冷凍食品売上高

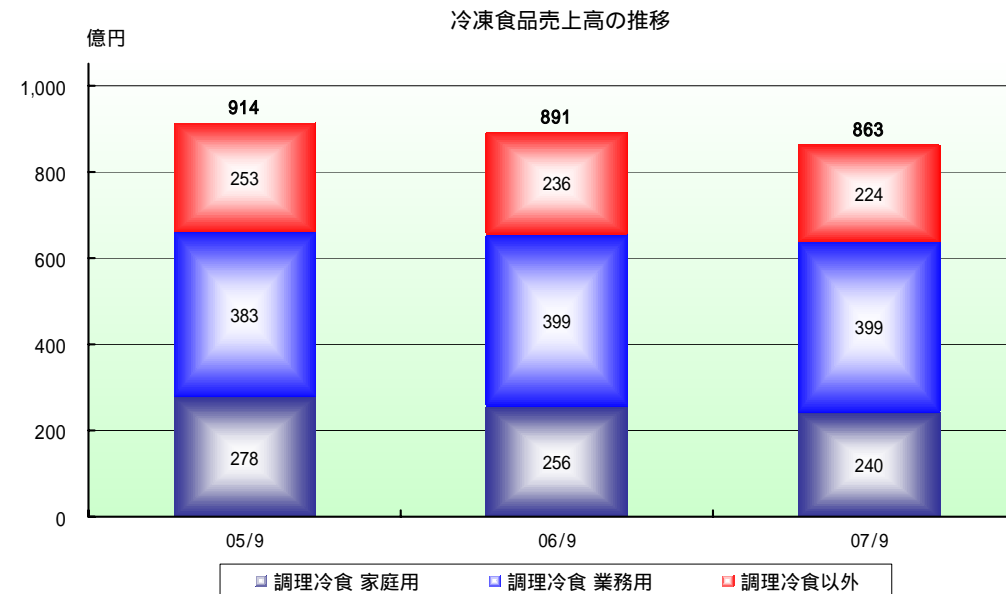
### 1. 冷凍食品全般

06/9比3%の減収。調理冷食は、業務用は前年並み維持したが、家庭用の回復が図れなかったことに加え、中国産品を敬遠する動きから冷凍野菜が5%の減収になったことが大きく響いた。

### 2. 調理冷食

家庭用：06/9比6%の減収、昨年来の販促費支出見直しで配荷率が低下した影響が1Qまで継続して減収となったのに加え、2Qに入っても8月・9月と冷食消費が前年割れとなり回復の機会が得られなかった。商品別にはテレビのCM効果で「からあげチキン」や「本格炒めチャーハン」が伸長し、重点6品目の売上げは前年を上回っている。

業務用：06/9比0%横這い、6月に大きく前年割れしたが、それ以外の月は順調に推移、2Qは前年比3%の増収となり、四半期では一年ぶりに前年を上回り、回復が顕著となった。

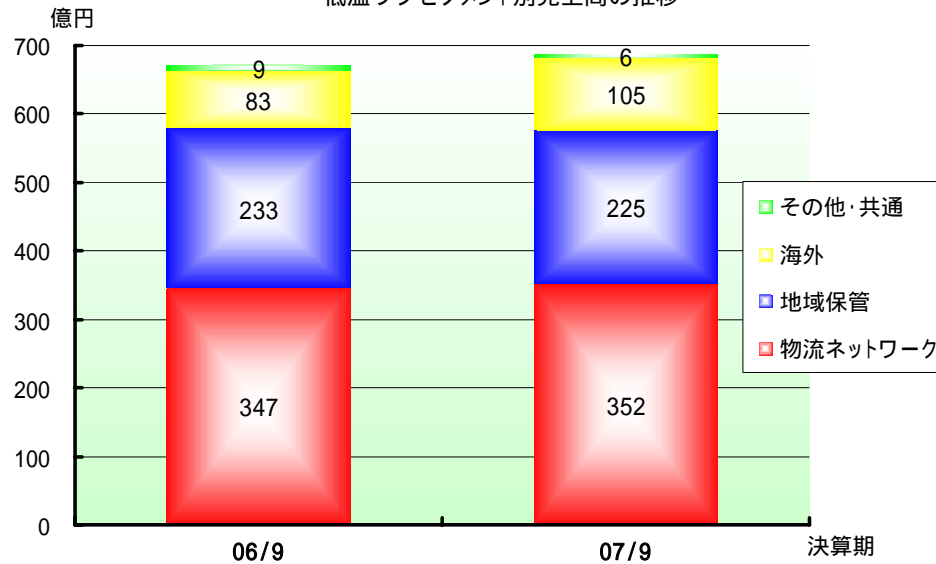


# 海外の好調に加えネットワーク事業も採算改善が進む

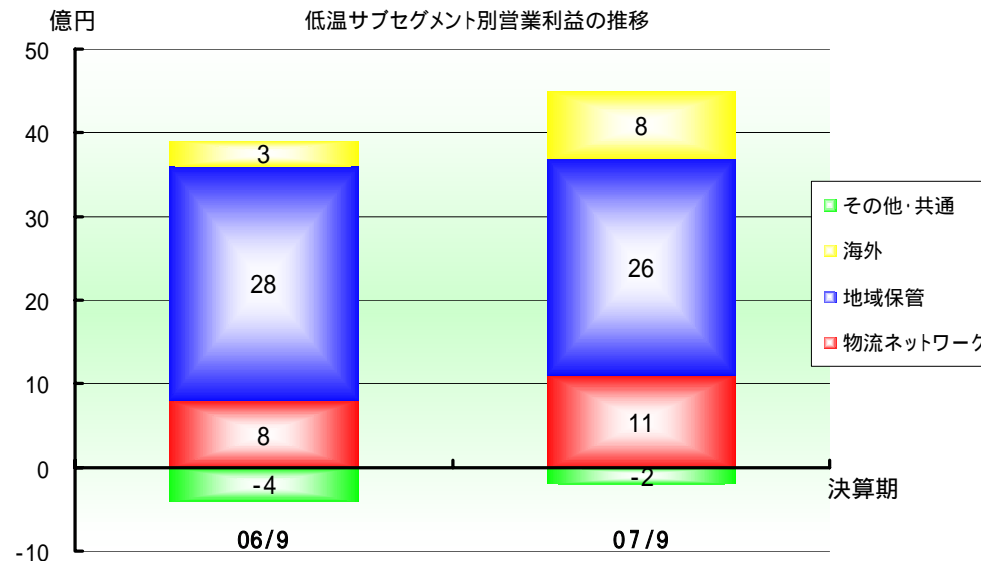
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

## 低温物流事業の対前期比増減の要因

低温サブセグメント別売上高の推移



低温サブセグメント別営業利益の推移



### 1. 物流ネットワーク

物流を一括受託しているグループ加工食品事業に対する売上げが、冷凍食品の不振を原因に減少しており、売上高は06/9比横這いと厳しいが、営業利益は不採算事業所の採算改善が進んだことで3億円の増益となった。

### 2. 地域保管

期初の予想どおり畜産物の在庫減少により厳しい業界環境に置かれたが、分社後の集荷営業力強化が実り、在庫率は前年水準を維持した。設備閉鎖による能力減少と減価償却費の会計処理変更による負担増を含め、06/9比売上高は4%減収、営業利益は3億円の減益となったが、期初の予想は上回ることができた。

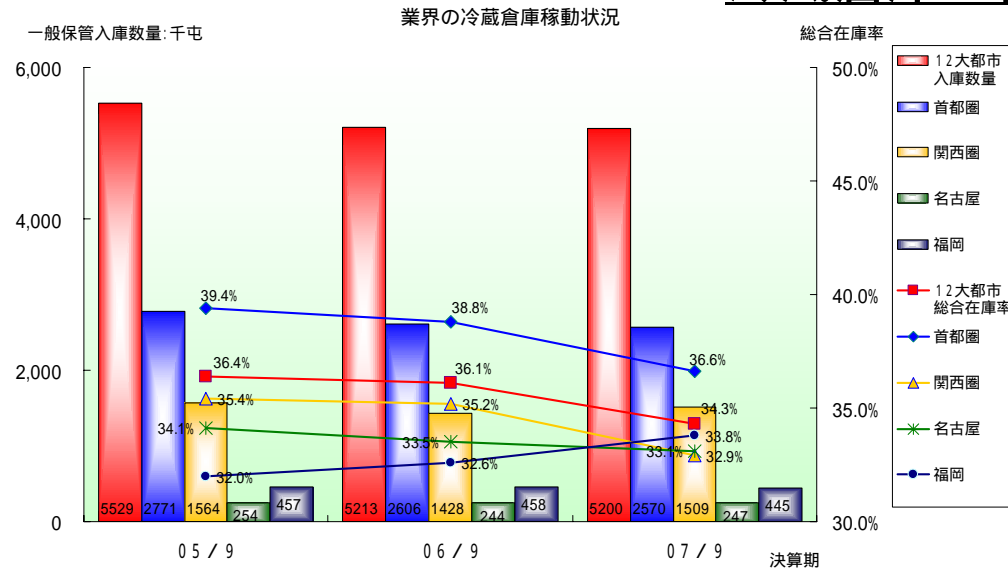
### 3. 海外

果汁の回復、運送や通関業務の取扱い拡大、懸案であったロッテルダム港湾や内陸の冷蔵倉庫での集荷策が奏効し06/9比28%増収5億円の増益となった。

# 畜産物減少で在庫率が低下する

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

## 冷蔵倉庫の稼働状況



### 1. 業界の状況

畜産物の在庫量が大きく減少したため首都圏をはじめ全般的に在庫率が低下した。

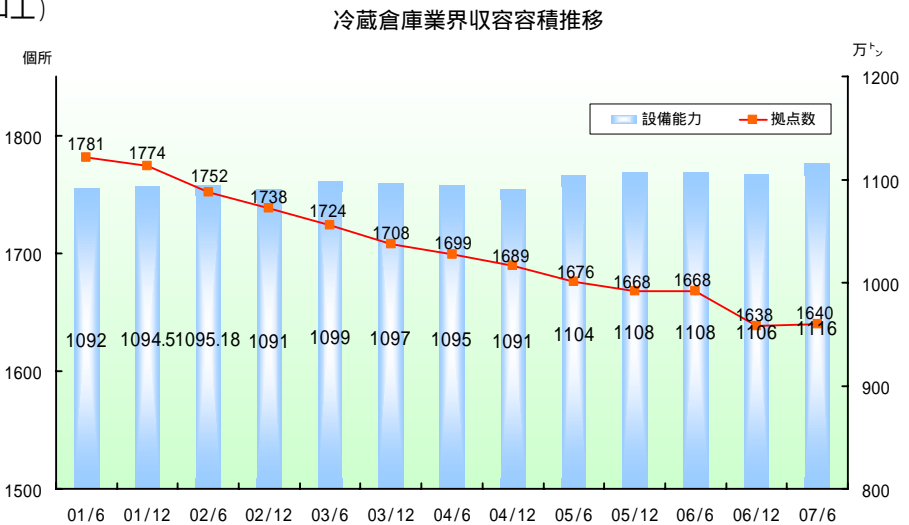
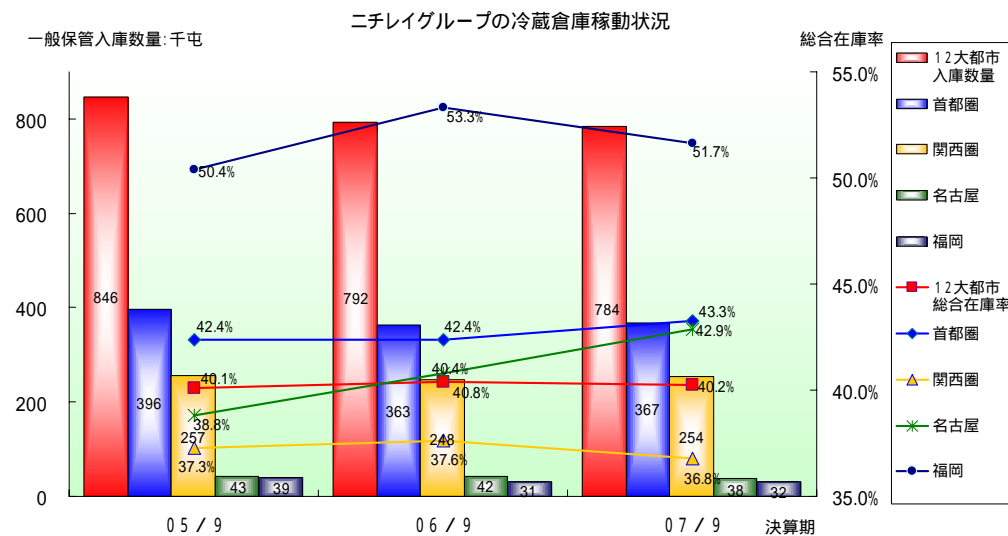
### 2. ニチレイグループの状況

畜産物出庫後の後荷集荷を徹底、昨年と比べ設備能力が減少したこともあり在庫率は前年水準を維持した。

### 3. 業界の設備能力

拠点数、設備能力ともにほぼ横這いが続く。

(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)



(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)



# 季節要因で総資産が増加

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

## 07 / 9期連結バランスシートの変動要因

単位：億円(未満切り捨て) 【主な要因】

科目	07/3	07/9	増減	
<b>(資産の部)</b>				
流動資産	1,076	1,152	76	
固定資産	1,615	1,562	-52	
資産の部合計	2,691	2,715	23	
<b>(負債・資本の部)</b>				
流動負債	862	927	64	
固定負債	698	631	-66	
負債の部合計	1,560	1,558	-2	
純資産の部	1,130	1,156	26	
(うち自己資本)	1,110	1,134	23	
(有利子負債)	729	742	13	
科目	06/9	07/9	増減	
(設備投資額)	26	28	1	
(減価償却実施額)	45	46	1	

売上債権が季節要因で77億円増加  
有形固定資産は減価償却などで17億円の減少、投資有価証券の35億円の減少は期末評価差額の縮小が主なもの

仕入債務が季節要因で21億円増加、社債の償還による減少100億円をCPの増加80億円で賄う

設備投資の主なもの

【加工食品】

ニチレイブラジル農産濃縮果汁ライン

【低温物流】

キョクレイ山下DC建替

ニチレイロジ九州都城DC増設

【不動産】

水道橋ビル本館リニューアル

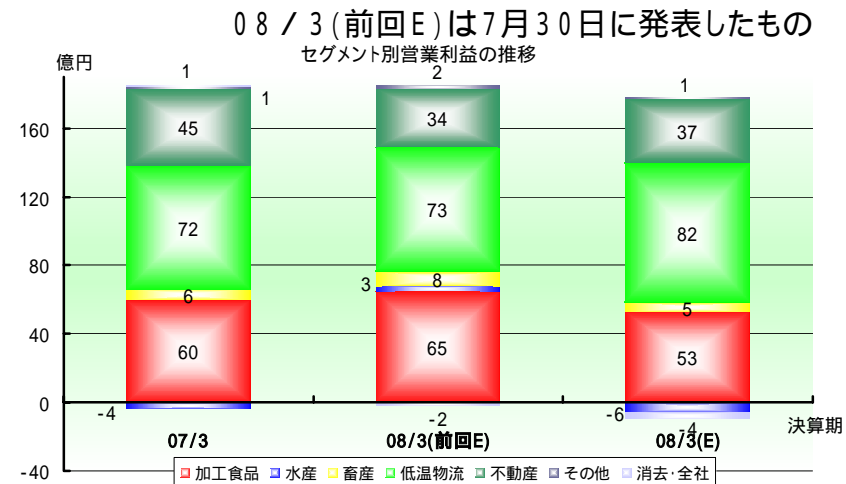
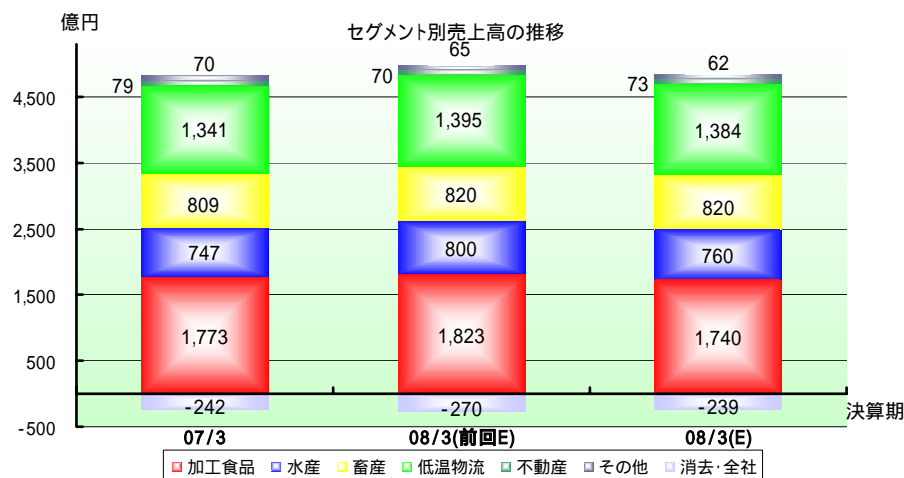


# 事業環境の悪化により売上・利益を下方修正する

## 2008年3月期の連結業績見込み

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

単位:金額 = 億円(未満切捨て)	07/3	08/3(前回E)	08/3(E)	08/3(E)対07/3比較	
				増減額	増減率
<b>売上高</b>	4,576	4,703	4,600	23	+0.5%
<b>営業利益</b>	181	183	168	-13	-7.4%
<b>経常利益</b>	173	173	160	-13	-8.0%
<b>当期純利益</b>	108	102	98	-10	-9.6%



1. 加工食品は売上・営業利益とも下方修正する。原材料費の上昇は値上げの浸透により吸収するものの家庭用調理冷食やアセロラの不振、固定費の増加が響く。
2. 水産は再生プランは進捗するが、エビをはじめ水産物市況の軟調で下半期も損失が拡大する。
3. 低温物流は引き続き海外が売上・利益ともに好調に推移し、地域保管も環境は厳しいものの、前年並みの在庫水準を維持、全体では当初見込みを上回る。

# 特別損益は関係会社株式売却が無くなり損失増加

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位:億円、単位未満切り捨て プラス表示は利益を示す	中間期				通期		
	07/9	06/9	増減		08/3E	07/3	増減
<b>【営業外収支】</b> (主要項目)	- 2	- 2	0	<b>【営業外収支】</b> (主要項目)	- 8	- 7	- 1
金融収支	- 2	- 3	+ 1	金融収支	- 8	- 7	- 1
持分法投資損益	+ 1	+ 6	- 4	持分法投資損益	+ 2	+ 5	- 3
<b>【特別損益】</b> (主要項目)	0	+ 26	- 26	<b>【特別損益】</b>	+ 1	+ 18	- 17
固定資産売却益	+ 6	+ 6	0				
関係会社株式売却益	0	+ 29	- 29				
固定資産除却損	- 4	- 3	- 1				

持分法投資損益の増減の主な内訳

07/9・08/3E:ともにアールワイフードサービスが - 4億円

土地の売却益

アールワイフードサービスの株式売却益を計上

下半期に発生が見込まれる主なものは

- 固定資産売却益
- 固定資産除却損

# データ集

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

## セグメント別売上高・営業利益の実績・見込・前回見込・前年実績

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	中間期			下期			通期		
	08 / 3		07 / 3	08 / 3		07 / 3	08 / 3		07 / 3
	実績	(前回E)		(E)	(前回E)		(E)	(前回E)	
<b>(売上高)</b>									
加工食品	885	900	914	855	923	859	1,740	1,823	1,773
水産	382	403	374	378	397	373	760	800	747
畜産	403	404	400	417	416	409	820	820	809
低温物流	688	695	672	696	700	669	1,384	1,395	1,341
不動産	39	38	35	34	32	44	73	70	79
その他	29	32	35	33	33	35	62	65	70
全社または消去	-115	-136	-128	-124	-134	-114	-239	-270	-242
合計	2,311	2,336	2,302	2,289	2,367	2,275	4,600	4,703	4,577
<b>(営業利益)</b>									
加工食品	15	22	31	38	43	29	53	65	60
水産	-3	1	-2	-3	2	-2	-6	3	-4
畜産	3	4	2	2	4	4	5	8	6
低温物流	43	38	35	39	35	37	82	73	72
不動産	22	20	18	15	14	27	37	34	45
その他	0	1	0	1	1	1	1	2	1
全社または消去	0	-3	-1	-4	1	2	-4	-2	1
合計	80	83	83	88	100	98	168	183	181

注：(E)は今回発表した見込数値、前回(E)は7月30日に発表した見込数値

# 当資料取扱い上のご注意

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみにも全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ニチレイグループの事業活動を取り巻く個人消費動向を中心とした経済情勢および業界環境
- 米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- 商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- 新商品・新サービス開発の実現性
- 成長戦略とローコスト構造の実現性
- ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- 偶発事象の結果
- など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。